

▶ 第13回目となる今回は、山梨学院大学 経営情報学部 経営情報学科 1年 山崎大輔さんが、株式会社セレオ 代表取締役社長 保坂孝夫氏 を取材しました。



学生

山梨学院大学
経営情報学部 経営情報学科
1年 山崎 大輔 さん

人の尊厳を 第一に考える

経営者

株式会社 セレオ
代表取締役社長
保坂 孝夫 氏



▶ 学生

会社の概要・事業内容を教えてください。

▶ 経営者

大正4年2月に創業した「喜月堂」は大正・昭和・平成と葬具・神仏具・和菓子を販売してまいりました。平成10年4月、これから大きく変化していきだろろう新たな葬祭サービスの時代に対応すべく葬祭部門を分離独立し「株式会社セレオ」を創業いたしました。平成11年1月に峡北地域初の葬祭場として「セレオホール葎崎」を開業、その後「セレオホール長坂」そして「セレオホール甲斐」と3つのセレオホールを中心に現在まで葬祭サービス事業を展開しております。私どもは常にご遺族の立場に立ち「いいお葬式だったね」そんな言葉をかけていただけるお別れを目指しており、その人なりの人生やご遺族の想いが伝わる葬儀を提案、応援しております。

葬儀の依頼は時間を選びませんので24時間対応が基本となります。いつまでも消費者の方々との「安心と信頼」が結べるよう、常に社員一同、研鑽を重ねております。

▶ 学生

業界の現状は？

▶ 経営者

自宅などで行われてきた葬儀はすっかり影をひそめ、セレオ二ホールを利用した葬儀に移行しております。狭い山梨県の中でも各地にセレオホールが乱立している現状です。山梨県民は毎朝まず新聞のお悔やみ欄を確認する方が非常に多

いと言われております。横のつながりが強く、義理ごとを大切にしている県民性だと思います。その中で葬送儀礼が延々と続いてきました。しかし、時代背景もあり、最近では家族だけの葬儀や火葬するだけで葬儀を行わない直葬が少しずつ増えていく傾向にあるように思います。

▶ 学生

葬祭業の社会的使命とは…？

▶ 経営者

日本人は冠婚葬祭を大切にしている国民性があると思います。「死に様は生き様」とよく言われますが、「生きたときの集大成が亡くなったときのその人の葬儀に現れてくるな」と葬儀をしていてよく思います。今後は葬儀の形態も変わってくると思いますが、我々の心の根底に流れる葬送文化を次の世代に伝えてゆくのも業界としての使命かも知れません。

私どもの会社は、山梨県葬祭業協同組合に加盟しております。さらに全日本葬祭業協同組合連合会にも加盟し活動しております。先の東日本大震災では多くの尊い命が失われました。

取材を終えて…

今回、初めての取材で緊張することもありましたが、普段お聞きすることができない経営者の取材をすることができ、とてもいい経験になりました。葬祭業ということで知らないことも多く、難しい業種だと思っていたのですが、とても分かりやすく丁寧にお答えしていただき、大変勉強になりました。取材の中で、人生の最期を締めくくる儀式に携わるという仕事の中で尊厳を第一に考え、こだわりを持ってお送りすることにご自身の奥深さを感じました。今回取材させていただいた株式会社セレオ様をはじめ、この企業レポートにご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

業界団体として棺、骨壺、ドライアイス等の物資支援、ご遺体搬送等の人的支援を行いました。これも社会的使命であると思っております。

▶ 学生

人の死に関わることについてどうお考えですか？

▶ 経営者

いかなる「いのち」も差別や偏見なく等しく尊重されるべきである。という考えに立ち故人の尊厳を第一に考えます。

若くして亡くなる方もいれば、天寿を全うされる方もいます。どんな方にもその人だけの尊い命があります。そして悲しみの中にある遺族の方のお手伝いを少しでもできればということをお考えます。その中でグリーフワーク(悲しみを徐々に受け入れていく過程を共有すること)ということも考えます。一日でも早く普通の生活に戻っていただきたいということに対して我々は少しでもお手伝いができればと思っています。

葬儀を通して「いのちの大切さ」を伝えたいと思います。

